

## 第6回九州CTフォーラム

### 情報提供「小児CT検査に対するメーカーの取組」

座長集約 鹿児島大学病院 中島祐二

放射線被ばく全体の中で医療被ばくの占める割合は世界的に増加傾向にあり、我が国のCT検査に伴う医療被ばくの平均実効線量は通常生活のバックグラウンドと同程度といわれている。

CT検査での患者線量管理は世界的にも関心が高まっており、このセッションでは小児CT検査に対するメーカーの取組を紹介していただいた。

どのメーカーも小児撮影に特化したツールの開発・提供はないものの、高速撮影・高精細画像の提供と被ばく低減という一見トレードオフの関係に思える技術開発の同時実現に向けて取組んでおられる現状の報告がなされた。

メーカーから提供されるX線検出器や通信系などハードウェアの改良、画像再構成法、線量管理システムなど多岐にわたるオペレーション改善のサポートを最大限に活用しつつ、放射線被ばくによる影響が大きいとされる小児撮影のスキャンプロトコルの最適化にむけて尽力すべき我々放射線技師の責務をあらためて感じたセッションであった。